

(2) インフラ施設周辺森林の整備

現状と課題

- ◆ 県民意識アンケート（令和元年度）の結果では、県民生活に関連する37項目に関する重要度・満足度において、「自然災害に対する備え」重要度8位、満足度12位となっており、県民意識の高さがうかがえます。（再掲）
- ◆ 地球温暖化の進行に伴い集中豪雨が増加する傾向にあり、自然災害が激甚化、頻発化する危険性が高まっています。（再掲）
- ◆ 台風等の影響による倒木の発生により、送電線や道路といった、インフラ施設が被害を受け、通行止めや停電が長期かつ広域にわたり発生するなど、県民の安全・安心な生活に影響を及ぼす懸念があります。（再掲）

将来ビジョン

- ◆ インフラ施設周辺における森林が適正に整備され、台風等によるインフラ施設への倒木被害が減少しています。

取組の方向性

- ◆ インフラ施設周辺森林の整備状況を把握し、台風等による被害発生の危険性が高い森林については、事前伐採等の整備を進めます。

具体的施策《重点取組》

(送電線等の周囲森林の事前伐採)

- ◆ 台風等によるインフラ施設被害の未然防止につなげるため、送配電線や鉄道、道路などの重要インフラ施設周辺における森林整備の推進を図ります。